

用途別、口径別について

	メリット	デメリット
<p>ア 用途別料金体系 →家庭用や事業用など各使用者の用途によって、料金格差を設定するもの。</p> <p>例) 家事用 ○○○円 営業用 △△△円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○一般的には生活用に配慮できる。 ○営業用で使用している水道利用者から料金の一定の費用の回収ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本料金で固定費※の回収がしにくい。 ○営業用で使用している水道利用者の負担が大きく不平等である。
<p>イ 口径別料金体系 →水道メーターの口径の大小を基準にして、料金格差を設定するもの</p> <p>例) 13mm ○○○円 20mm △△△円) 200mm □□□円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○基本料金で固定費の回収がしやすい。 ○水道メーターに係る経費等や水道需要量が、概ねメーター口径の大小に対応しており、需要種別に応じた費用負担の公平と料金体系の明確性の確保ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○用途別料金と比べて少量使用者の負担感が大きくなる可能性がある。

※ 固定費・・・給水量の多少に関わらず施設の維持管理や更新に必要な経費